

令和元年6月12日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03523

研究課題名(和文)「シルクロード経済帯」建設の政治効果：中国による新型国際関係樹立の試み

研究課題名(英文) Political Effects of the "Silk Road Economic Belt" Construction: China's Initiative for Building a New Type of International Relations

研究代表者

益尾 知佐子 (Masuo, Chisako T.)

九州大学・比較社会文化研究院・准教授

研究者番号：90465386

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では以下の点が明らかになった。上海協力機構(SCO)に参加するロシア・中央アジア諸国と中国との経済協力はトップダウン形式で推進され、政治・経済体制の近似性が各国の対中評価の高さに繋がっている。第二に、こうした経済協力によって中国と相手国のエリート間では利益共有関係が生じているが、地域社会の国境を超えた大きく融合は進んでいない。第三に、これらの国々の中の「新型国際関係」は、実際には伝統的な近代主権国家間の内政不干渉原則に基き進められている。中国の周辺各国では中国をモデルとした国家資本主義的な経済建設が目指されており、政治経済体制の近似性が新たな世界のグループ化につながる可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、「一帯一路」下で進むロシア・中央アジアと中国との経済協力が、双方の政治的関係にどのような影響を及ぼしているか検討した。その結果こうした経済協力が、主権や経済権益の擁護に敏感な各国政府の意向に基づきトップダウン形式で慎重に進められていること、むしろだからこそロシア・中央アジア側の中国への評価が向上しており、経済協力の推進にあたって政治体制の近似性が大きな意味を持つことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research has found the following points. First, the economic cooperation between China and other Shanghai Cooperation Organization (SCO) participants such as Russia and Central Asian countries is carried in a top-down fashion. The closeness of their political and economic regimes plays an important role to improve China's reputation among the SCO members in the course. Second, the cooperation has created the political and economic common interests among the elites without producing the social integration of different countries. Thirdly, the "new type of international relations" China aims to establish is operated on the foundation of the traditional principles of modern inter-state relations. Their similarities in political and economic regimes may facilitate the formation of a new authoritarian grouping in the global politics in coming years, as the Chinese neighbors try to model after Beijing's state-capitalism in their nation-building process.

研究分野：国際関係論

キーワード：中国 上海協力機構(SCO) 一帯一路 シルクロード経済帯 ロシア 中央アジア 経済協力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2015 年末のアジアインフラ投資銀行 (AIIB) 設立に象徴される通り、本研究の申請時にはすでに、経済力をテコに「新型国際関係」の樹立を目指す中国の動向が注目されていた。冷戦後、自由民主主義を基軸に形成されてきた国際社会のあり方は、権威主義的な経済大国の台頭によって大きな転換期を迎えていた。

海洋、宇宙、技術などの問題で対米緊張を抱える中国は、内陸の、特にロシアをはじめとする上海協力機構 (SCO) 諸国との連携に力を入れ、そこでの「協力・互惠」的關係の発展を基礎に、「より公正で平等な」新型国際関係への脱却を模索していた。中国にとって、SCO 諸国との関係強化は、自らの影響力の下に新型国際関係を立ち上げるための第一歩となっていた。

ただし、SCO 諸国との関係性は中国の一方的な願望だけでは決まらない。中国が試みる新型国際関係樹立の行方は、SCO のもう一つの大国であるロシア、そしてその両者に挟まれた中央アジアの国々の複合的な見方を交えながら、分析され評価されていくべきであった。

2. 研究の目的

習近平国家主席が 2013 年秋に唱えた「一帯一路」構想のうち、カザフスタンで最初に発表された「シルクロード経済帯」は、これらの SCO 諸国をまさに直近の協力対象として想定している。そのため国際政治の観点からは、中国がその推進によってどの程度「新型国際関係」の樹立に成功するかは極めて重要である。他方で経済政策としては、「一帯一路」は中国が過去に東南アジアなど周辺国と進めてきた協調発展策の延長線上にある。中国と南方隣国との経済協力では、経済共同体構築に関わるアクターは重層化・多様化しているが、権威主義的な SCO 諸国との経済協力においても同様の社会関係が構築されつつあるのかどうかは不明であった。

以上の二つの側面を考慮し、本プロジェクトは主に次の作業を行った。まず、中国が SCO 諸国と取り組む「シルクロード経済帯」建設の現状を把握し、その政治的効果を考察した。次に、各国の各レベルのアクターとその相互作用を分析し、経済活動の進展が各国市民の対外認識やアイデンティティーにもたらす質的变化を検討した。

3. 研究の方法

本研究は主に、(1)先行研究の整理、(2)公式報道や経済統計を用いた関連データの収集、(3)現地聞き取り調査、によって行われた。中国と SCO 諸国との間の経済協力の現状把握を行いつつ、それが国家間関係や各国の社会認識の変容にどのような影響を及ぼしているかを聞き取り調査で考察した。その際は、首都と国境地帯の相手国に対する温度差にも注意を払った。

現地聞き取り調査は、1 年目はカザフスタン、2 年目はウズベキスタン、3 年目はロシアおよび中国黒龍江省で行った。各地では政府関係者、政府外郭団体、政治家、企業家、大学・研究所の研究者、マスコミなどを訪問した。また、中国関連のマーケットを視察し、現地の一般人とも広く言葉を交わして、中国の経済進出に対する現地の一般人の反応などを聞き取った。

さらにこれらの調査と並行し、北京や上海でも中国の専門家に聞き取りを進め、また国際会議等で訪れたそれ以外の国々でも中国の経済進出に対する各国の反応を調査した。これにより、SCO 諸国の現状および認識を、それ以外の国々と比較対照しながら考察することができた。

なお、当初は中国の新疆ウイグル自治区でも調査を予定していたが、治安の悪化と中国政府の取り締まり強化のため中国国内の研究者の協力が得られず、断念した。

4. 研究成果

本研究では、次のような点が明らかになった。

(1) 経済協力の進め方と政治体制との関連性、対中評価

中国と各国との間で、経済協力がどのような手順で、どのアクター間で進められているかを調査したところ、完全にトップダウン方式であった。一般的には、まず二カ国のトップ指導者の会見時に覚書が調印され、次に経済担当省庁と国家の金融機関の話し合いに移り、それから政府主導で比較的規模の大きな企業間のマッチングが行われる、という手順であった。

こうした経済協力の進め方に対し、SCO 諸国の中国に対する評価は非常に高かった。中国と同様に権威主義的な政治体制を持ち、統制的な経済体制の残る中央アジアの国々では、これは極めて効率的で、自分たちの国家建設に直接役立つものとみなされていた。中国とロシアの国境貿易は 1980 年代から進められてきたが、2014 年以降の欧米の対口制裁によって、中国はヨーロッパロシアでも政治情勢に左右されない安定的パートナーとして認識され始めている。こうした経済協力にとって、同質的な政治体制は重要なプラス要因となっていた。

なお、多国間の経済プロジェクトでは、融資者となる中国のみがすべての国と交渉を行い、プロジェクトのハブ機能を担っていたが、それに対する強い反感は聞かれなかった。

他方、こうした政治経済体制を持つからこそ、どの SCO 諸国でも自国主権の擁護が強く認識されていた。中国企業の対外活動はさまざまな法規制やビザ制度で多くの規制を受けていた。

(2) 経済共同体構築に関わるアクター、社会融合の程度

総じて、経済協力によって中国と相手国のエリート間では利益共有関係が生じている。しかし、地域社会の国境を超えた融合はまだ観察されていない。

自由民主的な国々との経済協力に比し、SCO 諸国と中国との社会融合は遅れている。いずれの国の政府も経済協力には積極的な姿勢をとるが、中央政府の力が突出しており、中国-ASEAN 関係で重要な役割を果たす中国の地方政府も、ここではあまり活発ではない。ロシア、中央アジアでは中国語学習が流行し、中国留学が若年層に新たな学習の機会を提供しているが、いずれの国も中国人へのビザ発給には慎重で、中国企業の対外進出の足かせとなっている。中国籍のウイグル人・カザフ人等の渡航や中露国境地帯でのショッピング観光を除いて、各国と中国との民間交流は盛んではなく、中露国境地帯のロシア側には今日もロシア軍の駐屯地が広がる。中国の投資を呼び込みたい各国政府は、自国メディアに中国との経済協力に関する肯定的な報道を流させているが、かつての中ソ国境紛争の影響もあり、民間レベルでは中国に対する警戒心が依然強く残っている。またそれは、「中国に自分たちの利権を安く売り渡しているかもしれない自国政府」に対する批判と潜在的に連動している。

(3) 中国による「新型国際関係」樹立の試み

「シルクロード経済帯」建設を通じて、中国と SCO 諸国との協力関係は順調に発展しているが、それは「新型国際関係」と呼ぶよりむしろ、極めて伝統的な近代主権国家間の内政不干渉原則に基づく、国家エリート間の経済・国内統治協力として実施されている。その意味で、最近ウズベキスタンなどで中国に似たインターネット統制が始まったことは注目すべきである。また中国との経済協力によって、中国の周辺各国では中国をモデルとした国家資本主義的な経済建設が目指されるようになってきている。今後米中間の対立が拡大すれば、政治経済体制の同質性によって世界が再び分断される可能性は高まっている。

他方、中央アジア地域では、伝統的なロシアの影響力と、急速に拡大する中国のそれとのバランスを取るように、域内各国の連携強化を模索する動きが始まっている。中国の経済的積極性が各国の主体性を刺激しており、そうした国々の動向にも今後さらなる注目が必要である。

(4) その他、習近平政権「一帯一路」提唱の経緯

中国のロシア、中央アジア専門家への聞き取りにより、「一帯一路」は習近平政権が発足直後からトップダウンで準備を進めた対外構想とわかった。2013年5-6月ごろには外交部のユーラシア局、アジア局の召集により、陸と海の「一帯一路」に関するブレイクストーミングの会議がそれぞれ開催されていた。これは中央政策研究室主任の王滄寧が指示したもので、この時点で構想の大枠はすでに定まっており、ユーラシア局局長の張漢暉が「シルクロード経済帯」の命名を行った。また海の経済構想がこの時点では、日本等も含めた伝統的な経済協力をさらに深めるという意図で準備されていたことも明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計16件)

- (1) Chisako T. Masuo, "Competitive Cooperation for Regional Development: Japan's New Strategy towards Rising China," *Australian Journal of Politics & History* [Accepted on Apr. 8, 2019, forthcoming]. 査読付.
- (2) Timur Dadabaev, "Revisiting Japan's Silk Road Master-narratives", *Asia Pacific Issues*, Issue 186 (Mar. 2019), pp.1-12. 査読付.
- (3) Timur Dadabaev, "Afghanistan: Changes and Shifts in Domestic, Regional and Global Dynamics", *Asian Survey*, Vol.59, No.1 (Feb. 2019), pp.114-123. 査読付.
- (4) Timur Dadabaev, "Discourses of Rivalry or Rivalry of Discourses: Discursive Strategies of China and Japan in Central Asia", *The Pacific Review*, Nov. 2018, pp. 1-35. (<https://doi.org/10.1080/09512748.2018.1539026>) 査読付.
- (5) 益尾知佐子「習近平は『強硬』か? : 日本の進路についての一考察」『ディフェンス』(自衛隊隊友会) 56号、2018年10月、38-46頁。査読無.

- (6) Nobuhiro Aizawa, Nick Bisley, Chisako Masuo and Rebecca Strating, "Cooperation in Contested Asia: How Japan and Australia Can Shape the Region's Changing Security Dynamic," *The La Trobe Asia Brief*, No. 1-2018 (Sep.), La Trobe Asia, pp. 1-12. 査読無.
- (7) Timur Dadabaev, "Japan Attempts to Crack the Central Asian Frontier", *Asia Global Online*, Aug. 2018, pp1-5. 査読付.
- (8) Timur Dadabaev, "Japanese and Chinese Infrastructure Development Strategies in Central Asia", *Japanese Journal of Political Science*, Vol.19, No.3 (Aug. 2018), pp.542-561. (<https://doi.org/10.1017/S1468109918000178>) 査読付.
- (9) Timur Dadabaev, "Chinese Economic Pivot in Central Asia and Uzbekistan's post-Karimov Re-emergence", *Asian Survey*, Vol.58, No.4 (Jul. 2018), pp.747-769. (<https://doi.org/10.1525/as.2018.58.4.747>) 査読付.
- (10) 益尾知佐子《周辺国家对中国の看法：探討今後亜洲国際秩序の走向》《中国国際戦略評論》（北京大学国際関係学院）2018年上巻、161-174頁。査読付.
- (11) Timur Dadabaev, "Uzbekistan as Central Asian Game Changer: Uzbekistan's Foreign Policy Construction in the Post-Karimov era", *Asian Journal of Comparative Politics*, May 2018, pp.1-24. (<https://doi.org/10.1177/2057891118775289>) 査読付.
- (12) 益尾知佐子《論中国政府關於“釣魚島”主張的發展過程：政府宣伝与民族主義の高漲》《当代日本与東亜研究》（当代日本与東亜研究会）第2巻第2号、2018年2月。査読無.
- (13) Timur Dadabaev, "'Silk Road' as foreign policy discourse: The construction of Chinese, Japanese and Korean engagement strategies in Central Asia", *Journal of Eurasian Studies*, Vol.9, No.1 (Jan. 2018), pp. 30-41. (<https://doi.org/10.1016/j.euras.2017.12.003>) 査読付.
- (14) 益尾知佐子「序論：南シナ海をめぐる力と手法の非対称」『アジア研究』63巻4号（2017年10月）、1-4頁。査読無.
- (15) 益尾知佐子「中国海洋行政の發展：南シナ海問題へのインプリケーション」『アジア研究』63巻4号（2017年10月）、5-23頁。査読無.
- (16) 益尾知佐子「長期計画達成に邁進する中国の海洋管理：『海島保護法』後の国内行政を手がかりに」『東亜』598号（2017年4月号）、76-88頁。査読付.

〔学会発表〕（計10件）

- (1) ティムール・ダダバエフ「中央アジアにおける記憶問題」、ロシア史学会年次大会、2018年10月13日、東京都立大学。
- (2) ティムール・ダダバエフ「対中央アジアインフラ戦略の日中比較」、比較政治学会年次大会、2018年10月17日、関西学院大学。
- (3) Chisako T. Masuo, "How to Achieve 'Peace' in Asia?: Contradicting but Corresponding Views from Japan and China," World Social Science Forum, Fukuoka: Fukuoka International Convention Hall, Sep. 25-28 (presentation on 26), 2018.
- (4) Chisako T. Masuo, "Toward Exclusive Enforcement?: China's Fisheries Policy and the Prospects of Maritime Governance in Southeast Asia," International Studies Association (ISA), San Francisco: Hilton Downtown San Francisco, Apr. 4-7 (presentation on 5), 2018.
- (5) 益尾知佐子「中国の海洋シルクロードと東アジア地域秩序の行方」、2017年日本国際政治学会研究大会（分科会報告、東アジアI）、2017年10月27-29日（報告27日）、（於・神戸国際会議場）。

- (6) Chisako T. Masuo, "Russia's Weight for China in the Global Context: Is the China-Russia Partnership Long-lasting?," SRC Summer Symposium, Jul. 13-14, 2017, Hokkaido University.
- (7) Chisako T. Masuo, "The U.S.-China Hegemonic Contestation over the East Asian Waters," Maritime Session hosted by Korea Maritime Institute, The World Congress for Korean Politics and Society 2017, Jun. 23, 2017, Seoul: Yonsei University.
- (8) 益尾知佐子「中国の『海洋国土』政策とその国際的インプリケーション」、2016年アジア政経学会秋季大会、2016年11月19日（於・北九州国際会議場）。
- (9) Chisako T. Masuo, "The Impact of Chinese 'One Belt, One Road' on Northeast Asia", the 14th Asia Pacific Conference, Beppu, Japan: Ritsumeikan Asia-Pacific University, Nov. 5-6, 2016.
- (10) Chisako T. Masuo, "Domestic Architecture of Chinese Regional Strategy: The Roles of Local Governments in the 'One Belt One Route' Initiative," International Studies Association Asia-Pacific Conference, Jun. 25-27, 2016, City University of Hong Kong.

〔図書〕（計3件）

(1) 益尾知佐子『中国の対外行動原理』（仮題）中公新書、2019年10月予定（初稿提出済）。

(2) . , "

- , 2019 (Chisako T. Masuo, "Japan's Global Diplomacy in Response to Chinese Belt and Road Initiative," A. V. Lukin and V.I. Yakunin eds., *Roads and Belts of Eurasia: National and International Development Projects in Eurasia and Prospects of Their Integration*, Ves' Mir, 2019), pp. 187-207. [In Russian]
- (3) 益尾知佐子・青山瑠妙・三船恵美・趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017年9月（益尾担当箇所：pp. 5-9、pp. 87-112、pp. 159-188、pp. 189-213）。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名： ティムール・ダダバエフ

ローマ字氏名： Timur Dadabaev

所属研究機関名： 筑波大学

部局名： 人文社会系

職名： 教授

研究者番号（8桁）： 10376626

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。